

田中秀征さんを講師に招いての 講演会のご案内

今回のたろう通信では、田中秀征さんの講演会のご案内を申し上げます。

たろう通信第4号でみなさまにご報告いたしました通り、私は、結党理念・基本政策に共鳴する「さきがけ」とどまり活動を続けています。田中秀征さんは、その「さきがけ」の理念・基本政策をまとめた人物です。

昨今では、理念や政策、つまり「これからの日本をどうするべきか」という方向性が示されることなく、永田町の論理による政党や政治家の離合・集散が繰り返されています。国民に広がる政治不信の根底には、国民に日本の将来像を示せずにいる政党や政治家にあると思います。このような状況の中で、私は港区の議員として、港区の将来あるべき姿を区民のみなさまに示すべく、地方政治独自の新しいグループ「みなとかがやき」を結成しました。しかし、国政においては明確なビジョンを示している勢力が見当たらないのが現状です。

そこで、私が、日本の将来像を示すことのできる数少ない政治家の一人であると確信する田中秀征さんの考え方をみなさまに知って頂きたい、講演会『田中秀征が語る どうする?日本』を企画いたしました。

下記のような日時・会場で開催いたします。師走のご多用の折とは存じますが、何とぞ足をお運びくださいますようお願い申し上げます。

なお、最新の活動報告については、「みなとかがやき」の報告紙である「通信かがやき」をご覧頂ければ幸いです。(お手元がないという方は、ご連絡頂ければお送りいたします)

日時 12月13日(土)
午後2時～4時30分

場所 南青山会館(下記参照)
港区南青山 5-7-10 3406-1365

会費 1,000円(当日でも結構です)

- ◇ なお、郵送でこの通信を受け取られた方で、ご参加ご希望の方は、同封の返信はがきでご連絡頂ければ幸いです。
- ◇ できましたら事前にお申し込みくださいますようお願いいたします。

講師紹介

田中秀征
(たなかしゅうせい)

1940年長野県生まれ。東京大学、北海道大学卒業。72年の衆議院議員総選挙に初出馬、4度の落選を経て83年に初当選。93年自民党を離党し「新党さきがけ」を結成。細川政権では首相特別補佐、第一次橋本政権では経済企画庁長官。96年10月20日の総選挙で落選。福山大学教授。著書に「さきがけと政権交代」「田中秀征の論跡」「時代を視る」「民権と官権」など。

お申し込み、お問い合わせは…

5485-9111

または
taro@hinet-j.co.jp

までお願いいたします

田中秀征が語る
どうする?日本

四年間の連立政治を経て、現在“総与党化”といわれる現象が進んでいる。四年間の貴重な経験の出口がこれでよいのだろうか。四年前、大きな期待を受けて始まった日本の連立政治が次第に精彩を失い、ついに総与党化の流れに道を譲り、「大きな政治」の可能性が、「小さな政治」に呑み込まれようとしているのだ。総与党化の流れは、実は総行政党化への流れだといってもよい。強大な行政党の進撃をみて、白旗が次々と掲げられたのだ。国の進路について明確な目標を持たない政治家や政党は、どうしても選挙本位、政局本位の行動を続け、最後には行政党の掌中に取り込まれてしまうだろう。

総与党化、総行政党化現象にはこれからますますはずみがついていく。特に、小選挙区選出議員は先鋭化する地域エゴに突き上げられ、地方自治体や議会、あるいは支持団体の“与党化願望”の圧力に屈しざるを得なくなる。今までの政治に大きな行きがかりを持つ政治家だけが与党化できずに、孤立していくことになるが、“大義名分”さえ整えば、野党の指導的政治家も喜んで与党入りしていくはずだ。

野党勢力が縮小分解すれば、与党対野党の“力の争い”は幕を閉じる。変わって登場するのが与党内、政権内での地位や権力をめぐっての力の争いだ。外敵(野党)がいなくなれば内部抗争は收拾つかないほど激烈なものになるだろう。

有権者の多くはそれに嫌気がさして投票所に行かなくなる。半分程度の有権者の投票だけ

で国の大事な政策が決められていくのだ。

近年、行政党の集票力と資金調達力はますます強まっている。私の推測では、地方においては行政党が三割近くの集票力を持っている。投票率が低ければ、これだけでも当選圏をうかがうことができる。だからこそ、政治家が国や地方の行政にますます弱くなってしまうのだ。総与党化現象の底流には、このような事情が存在している。

前に述べたように、行政党は価値の母体たり得ない性格を持っている。みずから方向を決めることができないのである。そして、みずからを改革する力も持っていない。新しい日本の進路設定やシステム改革の障害になりかねないものだ。決して行政党が新しい日本の進路を切り開くことはない。

政治が新しい進路を設定できなければ、行政党が主導して既存路線の延長上を突っ走るだけだ。冷戦時代の外交・安保政策の延長を走り、右肩上がりの経済や財政の再現を求めて突き進むことになるだろう。

「新しい日本の進路」を掲げて、力の争いを価値の争いで封じ込めていくこと。それが唯一の建設的な道だと信じている。四年間の反省によってその困難な事業に取りかかることができれば、不毛な四年間が必要な四年間であったことになるだろう。

田中秀征著

『日本の連立政治(岩波ブックレット No.434)』

より抜粋

表面にてご案内申し上げたように、12月に田中秀征さんを招き講演会を開催します。田中秀征さんは多くの自らの著作はもちろんのこと、新聞や雑誌など幅広いメディアにおいてもご自分の考え方を述べられています。その中で、講演会の前に、特にみなさまに読んで頂きたい部分を抜粋し、当紙面に掲載いたします。紙面の都合上ごく一部のみの掲載ですが、田中秀征さんの現在の日本政治のとらえ方がお分かり頂けると思います。

なお、田中秀征さんの書籍等に関するお問い合わせもお気軽にどうぞ。お待ちいたしております。(連絡先は表面に掲載してあります)